

乳幼児健診からみた「望まれなかった児と母親」の問題 (II)

北 道子 (国立精神・神経センター 精神保健研究所)

目的

昨年度に引き続き、乳児をもつ母親を対象にした調査を調査対象人数を広げて実施している。乳幼児健診を利用することで、およそ一般的な群を対象としていることは、昨年同様である。そして、主として母親に記述してもらうことになり、母親の側面からアプローチした実態の把握を中心に考えている。

今年度の報告では、昨年度あまりふれることができなかった、母親たちの自由記述の項目から、安心して子どもを生き育てることのできる環境を作るために、乳児をかかえる親が望んでいることを中心にとりあげてみたい。

方法

アンケート調査は、1995年11月から開始し、現在も続行中である。東京近郊の保健所に協力を依頼し、乳幼児健診時、および母親グループの集まり、一歳半の歯科健診時にアンケートを郵送するなどの手段によって配布した。昨年度の質問票に若干の修正を加えたアンケートを使用し、母親に自記式で記入を依頼した。回収は保健所に来所する時に用意したボックスに入れてもらうことによって行った。

結果・議論

回収された調査票は、現時点で445通であった。現在回収を続行中であるため、個々の項目に関する報告は今回は省略した。

望まない妊娠であったものに、出産の経済的負担感がやや強く、育児の不安が強いことは昨年度の報告や、上林の報告ですでにふれたとおりである。しかしより広くその主張をみると、乳児を持つ母親が抱いている乳児への関心、社会への期待は、望んだ妊娠であったか否かにはかわりなく、共通していた。彼らが、乳児のどんなことに関心を寄せ、どんなことを社会や家族に望んでいるかについて、調査票の記載を分析した。

まず、社会や家族に望むことに関して、回収数445に対して、記載のあるもの272と61%におよび、母親たちに何らかの要望がかなり強く存在することが示された。

表1から表2に示すとおり、とりわけ強く示されているのが、妊娠、出産、育児のそれぞれの過程での経済的負担の軽減を望む声である。教育費にまで言及する声も多く、現在の日本で子どもを生き育てていくことへの経済的負担の大きさを憂えて、子どもは一人あるいは二人までと考えざるをえない親たちの状況である。

もう一つ多かったのが、保育制度の充実に対する要望である。働いている、あるいは働きたいと考えている母親は多く、現在の保育園などの制度への要望は大きかった。保育時間が短く制限が大きい、

人数枠が小さく順番待ちになる、0歳児保育の問題など、多くの母親が詳細な記載を行っていた。また、表中ではここに入らず、下の段に分けて記載したが、子どもを一時的に預けられる制度、病気や急用の場合などに利用できる制度や、ベビーシッターの制度などに対する要望も強かった。核家族の増加している現状では、働いている母親だけではなく、子どもを一時的に預けることのできる制度は待たれている。

保育園の時間外の保育制度にしても、ベビーシッターの制度にしても、民間機関のサービスが参入して、一部は始まっている。多くの母親は経済的に余裕があれば利用してみたいと思うが、現実的には難しいと考えている。(これは一部の母親グループに聞き取り調査をした結果である。)

次には、乳幼児にとっての生活環境について、安全で、のびのび遊べる環境を求めるものであった。また、乳幼児を連れて外出したときの設備の改善、例えば、ベビーカーで動きにくい道路の段差や階段、デパートやスーパーのトイレにベビーベッドは少なく苦勞することなど切実な問題である。

同程度に多かったのが、家族の協力、とりわけ夫(パートナー、子どもの父親など記載はいろいろ)の協力を求めるものである。母親の役割の大変さへの理解や思いやり、仕事を持つ母親との育児の役割分担などから、父親になっても育児休暇はもとより、早退や休みも取りにくい社会の風潮への不満などである。同様な意味も含むが、働く妊婦や母親のために配慮された職場の理解や制度を求めるものもそれについて多く、産休や育児休暇を取ることへの気兼ね、母親であることでの不利な扱いなどの記載があった。

他には地域でのネットワークを作り、気軽に相談できる人や場所を求める要望があった。赤ちゃんを歓迎する地域の雰囲気は、母親たちにとって気軽に子どもを連れて外出し、子どもを気楽に見守れる空間を広げることができるようになるために、重要な要因となっている。また落ち込んでいるかもしれない母親が、気軽に声をかけられる人や場所の提供を試みるとともに、そういった地域の状態が基盤に必要であろう。

また、近年の社会情勢も反映し、いじめのない学校や、恐ろしい事件のない社会にという声もみられた。

乳児への関心については、表3に示すように、記載のほとんどが児の健康・発育・発達・成長に係わることである。つづいて病気、児の性格形成、将来の教育への関心と続いていた。赤ちゃんが、毎日毎日変化している様子を楽しみにみている母親の様子が、いきいきと記載されているものが多かった。

上記のような点に関して、もちろん全員の母親が記載しているわけではないが、彼女たちの記載の多くは詳細で、問題意識の高さがうかがえた。これらの問題は、直接望まない妊娠を引き起こすというわけでは必ずしもないが、問題がその母親にとってより大きなものとなってしまえば、母親を望まない妊娠の状態に追い込んでしまう可能性は十分にある。よって、これらの問題は一般の母親にとっての具体的な要望であるとともに、これらを解決していくことが、望まない妊娠の減少に少なからず寄与するであろうと考えられる。

経済的負担を軽く	59
医療費助成の年齢を6歳まで上げて欲しい	
妊婦検診や出産に保険を使えるように	
出産費用が高すぎる	
家賃が高い	
教育費を安く	
ベビー用品(おむつ・ミルクなど)を安くして欲しい	
税金面での軽減を	
児童手当の充実	
国、都、区からの援助の拡大	
保育制度の充実	58
保育園の増設	
保育時間の延長	
保育人数枠を広げて順番待ちをなくして欲しい	
0歳児の保育を保証して欲しい	
職場保育所を作って欲しい	
身近に保育園がない	
保育料が高い	
保育園などのサービスの広報をわかりやすくして欲しい	
母親の病気や急用時など	13
一時的に預かってくれる制度	
気軽に1日単位で預けられるところ	
乳幼児にとっての生活環境の改善	34
のびのび子育てできるような環境	
排気ガスの心配	
交通量多く危険	
子どもを一人で外に出せない	
公園が汚い	
公園に緑を多く	
ホームレスの人がたむろして公園に近づけない	
公園に雨の日の屋根のある設備が欲しい	
安心して遊べる場所	
乳幼児妊婦にとっての設備の改善	19
店にベビーカーでも入れるよう	
ゆっくり授乳のできる設備	
駅にエスカレーターを	
道路の段差をなくしてベビーカーで動きやすく	
トイレなどにベビーベッドを	
バスや電車でベビーカー用のスペースを	
妊婦のための乗り物の座席を	

表2 社会や家族に望むこと (II)

家族の協力	35
育児の大変さを理解して欲しい	
仕事を続けることに協力して欲しい	
思いやりをもって欲しい	
姑の反感	
家族に口出しされたくない	
父親（夫）に早く帰ってきて欲しい	
父親の育児休暇をとりやすく	
男性の早退や休みへの職場の理解	
父親に休日は家にいて欲しい	
病院	6
24時間でみて欲しい	
待ち時間を短縮して欲しい	
働く妊婦や母親のための制度	16
土曜や日曜に母親学級を	
まわりに気兼ねせず産休をとれるように	
つわり休暇や健診の時の有休	
職場の理解	
すべての会社で育児休暇を	
就職時母親とのことで差別しないで欲しい	
地域のネットワーク	6
互いに声を掛け合う	
母親学級など友達を作る機会を増やして欲しい	
近所の人たちと一緒に育てていける社会	
いじめのない学校、社会に	9
広くて安い住宅が欲しい	5
安心できる社会に	7
恐ろしい事件のないように	
学校教育の改革	5
学歴社会をやめて欲しい	
気軽に相談できる場所や人	5
その他	
公的手続き（母子手帳の交付など）を郵送やFAXで	
わかりやすい育児書	
赤ちゃんをベットと同じように扱わないで	
ベビー用品（おむつやミルク）の試供品を提供して欲しい。	
母子家庭への理解	
母親としての教育	

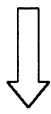
表3 赤ちゃんのどんなことに関心がありますか

回収数 445人

健康、発育、成長、発達	200
初めての赤ちゃんで、動作や表情何もかもに関心がある	
どのように愛情をかけるのが発達にいい影響を与えるのか	
病気のこと	17
アトピーや喘息の心配	
性格	18
おおらかで優しい子になって欲しい	
人をいじめたりしない子になって欲しい	
いつ頃から性格が形成されていくのか	
将来のこと	8
どんな子になるのか	
自立心のある子になって欲しい	
教育など	14
大きくなってからの教育	
いじめなどの不安	
現在の教育状況を心配する	
母乳、ミルク、離乳食など	10
しつけ、育児	7
その他	
保育園での様子	
おもちゃはどんなものがよいか	
兄弟からの影響	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

昨年度に引き続き、乳児をもつ母親を対象にした調査を調査対象人数を広げて実施している。乳幼児健診を利用することで、およそ一般的な群を対象としていることは、昨年同様である。そして、主として母親に記述してもらうことになり、母親の側面からアプローチした実態の把握を中心に考えている。

今年度の報告では、昨年度あまりふれることができなかった、母親たちの自由記述の項目から、安心して子どもを生き育てることのできる環境を作るために、乳児をかかえる親が望んでいることを中心にとりあげてみたい。